

コンビニエンスストア商品発注システムの構築

015213 山口 智也

(指導教員 速水 治夫 教授)

1. はじめに

あるコンビニエンスストアでは発注下限金額が設定され、商品の量が大幅に増えた。また、月末になると下限金額を守ろうとし、商品の量がさらに増え、スタッフの間で不満が多く上がっている。

また、近所で運動会があるが、発注量が少なくおにぎり等がほとんど売れてしまい、品切れ状態になるといった問題が発生している。

本研究では、これを解消するため、現在の発注システムを改善し、発注のバランスを改善するシステムを構築した。

2. システム概要

本システムは Microsoft Access2003 で作成したデータベースと Access VBA(Visual Basic for Applications)というプログラム言語を使用し、構築した。

下限金額をシステムに組み込み、発注数算出法を発注ログから参照するものから、下限金額などから算出する新たなものに改善した。また、イベント情報もシステム内に登録することにより、発注時に確認できるようにした。

システムの構成図を図1に示す。

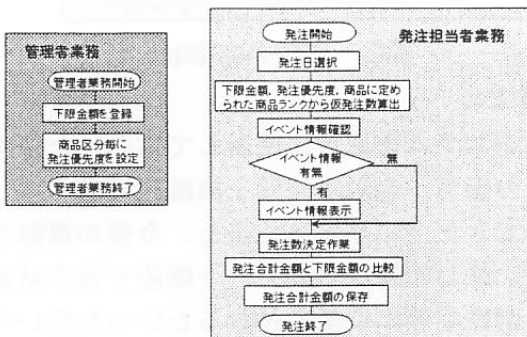


図1 提案システム構成図

3. 実行例

本システムの発注業務部分、発注日時選択から発注画面を起動するまでの実行例を図2に示す。イベント情報の有無で、2通りの流れになる。

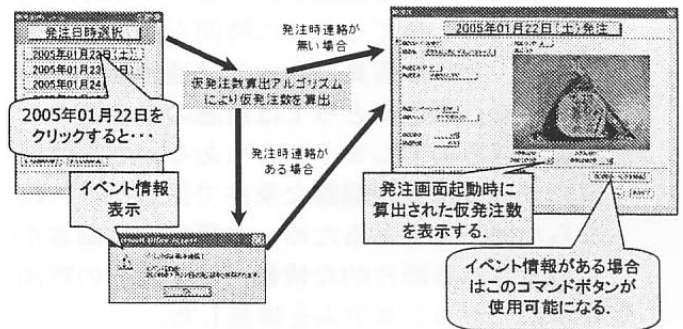


図2 発注業務実行例

4. 評価

本システムを研究対象としたコンビニエンスストアの発注担当者5名に評価してもらい、今まで手動で行っていた業務が自動で行われ手間が省ける、発注の目安がわかりやすくなり、発注数の決定が楽になった、発注時にイベント情報が確認できてよい等といった賛同の意見を得た。

しかし、一部操作がわからないことがあり、ヘルプなどの項目があると良いといった意見や、仮発注数算出にかかわる一部の値をパラメータ化したいという意見もあった。

5. まとめ

評価の結果から見て、発注量のムラを改善することや、イベント情報に対する意識を高めることができた。よってはじめに述べた問題を解決する発注システムを開発することができたと思う。

しかしまだ、評価でも挙げられたような改善の余地がある部分もあり、さらなる利便性の向上が望めるため、より研究を進める必要がある。